



# 鳥取こども学園 学園だより

第50号  
2021年12月1日

〇発行  
社会福祉法人  
鳥取こども学園

鳥取市立川町5丁目417番地  
電話 (0857) 22-4206  
http://www.tottorikodomogakuen.or.jp/

題字 尾崎悌之助

## 尾崎良一さんを偲ぶ

〜学園だより発行  
第50記念号に寄せて〜

社会福祉法人 鳥取こども学園  
理事長 藤野興一

### はじめに

敬愛する尾崎良一兄は、2001年1月15日午前8時過ぎ、鳥取日赤病院で主治医の徳永進氏や飯子姉に見守られて天国へ旅立たれた。66才10ヶ月の若さだった。

良一兄は兄独自の「美学」に基づいて自らのこの世との別れを準備された。葬儀は、生前からの指示通り、日本基督教団鳥取教会で、沖正元鳥取県副知事を葬儀委員長として、由井哲夫牧師の司式のもとに、しめやかに行われた。喪主はご長男の尾崎信一郎氏が勤められた。

### 1 愛はいつまでも——尾崎良一追悼集——

冒頭に良一兄の幼少からの個性豊かなカラー写真を掲載している愛蔵版である。

### ① 第1章では、「愛を見つめて——尾崎良一」の著述から——として、尾崎信太郎「こっぴんかつぽんの詩——大谷分校の春」芸術祭優秀賞を受賞。「母・茂子と俳句」「鳥取こども学園の福祉理念」21世紀への展望」など、良一兄の優しさやロマン溢れる48編の著述が掲載されている。

② 第2章では、「愛を注いで——日本海テレビ制作ドキュメント番組の解説」をご長男の尾崎信一郎氏が編纂されている。「カニが消える日・底引船同乗記」「ある選挙・古井善美」「Jーさん一家の日本」カンボジャ難民定住記「命の絆」腎臓移植の明日」「など15編を紹介している。

③ 第3章は、「愛をめぐりかこい——尾崎良一追悼集」となっている。1月15日が良一兄の召天記念日で、三回忌に、良一兄の軌跡を伝え残そうと「尾崎良一追悼集刊行会」が作られた。代表は沖正氏、委員として岡垣幸得、福田源次郎、三田三香子、竹内道夫氏、それに加えて尾崎飯子姉、信一郎氏、陽一郎氏をはじめとする尾崎家の面々、60名にも及ぶ多士済々の方々が「愛

をめぐりかこい」と良一兄への想いを綴られている。

2 「学園だより」創刊号は1997年6月1日、「学園後援会」機関紙年二回発行として発行された。

① 創刊号に、尾崎良一理事長が「荒野に水わき砂漠に川も流れん」「イザヤ書」と、創立の精神を見事に述べられている。

② もう一つ、僕の手元に1977年12月20日発行の「学園だより」創刊号がある。一面に藤野武夫初代園長が発刊によせて、創立以来の歩みを振り返り、学園出身者、旧職員、多くの支援者への想いを述べている。又二面に尾崎悌之助初代理事長が「カタコンベの壁画」と題し、ローマ皇帝の迫害に抗して生きたキリスト教徒のことを創立の精神に照らして描いておられる。

この1977年12月発行の「学園だより」は、当時の事情からその後発行されていないが、20年後に、良一兄によって丸ごと引継ぎ「総合」する形で1997年6月1日創刊号が発行された。その発行から、この度第50記念号を数えることとなったのである。

3 良一兄の出会い

① 良一兄のことを父からよく聞かされるようになったのは、両親が病床につき、1976年12月僕が学園の児童指導員として働きだしてからである。

父は、35歳になるまで藤野家のことなど顧みず、県外を転々としていた僕に言い聞かすかのよう、「鳥取県百傑伝」で良一兄が鳥取孤児院創立者で祖父の「尾崎信太郎」について書かれた文章を見せ、「良一さんは家思いの親孝行者だ」と羨ましそうに何度も言うのでした。

② 良一兄が学園の経営を引き継がれる決心をされたのは、1979年5月、創立者尾崎信太郎記念碑除幕式の時だったかと思う。

日本海テレビ報道制作局長・制作部長の要職にあった良一兄の行動力は目を見張るものがあった。まず、老朽化していた第3児童棟、本館、食堂など園舎の大規模改修に着手され、1981年3月には見事に実現された。

③ 良一兄は、1982年9月に理事長に就任され、「創立の理念に基づいた行動力」

は益々スピードアップすることとなった。1990年1月には鳥取みどり園幼児部園舎の老朽改修を実現し、1995年4月には自立援助ホーム鳥取フレンドの設置経営を法人で引受け、1996年3月には創立90周年記念事業として、鳥取フレンド建築、11月には地域交流OB・OG会館建築を実現した。

4 「愛は絶えることがない——鳥取こども学園90年史」の発行と「鳥取こども学園90周年記念式典」挙行。

① この間1994年6月には、永年勤務された日本海テレビを突然退職されている。兄は益々学園の経営に打ち込まれ、矢継ぎ早の大事業の先頭で指揮をとられた。

良一兄が著書「尾崎信太郎」の中で「魂の分裂、霊肉の背反、乃至理想と現実との矛盾。——絶えず矛盾を克服し、分裂を統合し、無限の「イデー」を追求せんとする「憧れ」。そこにロマンチズムはある。——積極的な態度の中に広大なる世界を展望し、人間世界のドロドロした関係も丸ごと「総合」する。良一兄と交流のあった人たちが口をそろえて言う「良ちゃん」の人物像は、とことん、優しい人、包容力の人、ロマンチスト、行動力の人、男の美学を持った正義漢、酒飲みである。

② 僕はそんな良一兄が大好きだし、響きあう大きな力を共有することで、救われた者の一人である。良一兄が1982年に理事長に就任された当時、僕は児童指導員で、「高校全入」や「自立援助ホーム」(理事会で否決への取組みなど「過激な暴走族」のような行動派であり、法人内では疎まれる存在であった。しかし、良一兄は僕の良き理解者だった。

③ 良一兄は病床にあつて死を覚悟され僕を呼んで、想いを語られた。「学園の事業はあくまでも民間キリスト教社会事業としての純粋性・独自性・献身的であつてはならない。行政に頼りすぎな——」と。

④ 僕は兄の想いを引き継ぎたい。飯子姉と共に良一兄のロマンと「愛」を、次の世代にバトンタッチしたいと思う。いつまでも天国で見守って下さい。また、お会いしましょう。

「学園だより」記念すべき

第50号発行にむけて

鳥取こども学園後援会

会長 村上亜由美

秋冷の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は後援会活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。年2回、学園の活動や子どもたちの様子、先生方の取り組みを皆様へ周知いただくため発行されています「学園だより」が、この度記念すべき第50号発行となりました。また、今年4月には鳥取みどり園が創立70周年を迎え、さらに「幼保連携型認定こども園」と様変わりをいたしました。

「養護施設で過ごす子どもたちには幼児期からの教育が必要」と初代園長を務めておられた藤野とり先生への想いが保育所「鳥取みどり園」を生み、70年間その精神を先生方が受け継がれ、さらに地域の子どもたちの教育施設となるため「幼保連携型認定こども園」に移行し歩み始めております。

鳥取こども学園の「福祉の精神」と「愛の精神」は、これからも脈々と受け継がれ、多くの子どもたちに注がれていくことを確信しております。

ます。

すべての子どもたちは、平等に教育・知育・体育・食育を受けなければならぬと私は思います。皆様のご寄付により子どもたちは学び、食べ、遊ぶことができていると言っても過言ではありません。私たち後援会会員も学園の取り組みを理解し協力・支援をしていかなければなりません。学園だよりに目を通し先生方の想いを理解し、それを形に変えるお手伝いができるよう活動していきたいと思っております。世の中はコロナ禍で殺伐としております。自分の事で精一杯の時もあります。だからこそ手を携え乗り越えていかなければなりません。

「福祉の精神」「愛の精神」でこれからも子どもたちの成長を見守っていきましよう。今後とも後援会活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、学園だよりが100号200号と発行されることをご祈念申し上げます。私の寄稿とさせていただきます。学園だより発行50号、誠におめでとうございます。



「学園だより」50号の

発行に寄せて

前理事長 尾崎 倭子

愛はいつまでも絶えることがない

(コリントの信徒への手紙十三章)

年2回発行される「学園だより」を手にする度、私は何時も聖書のこの一節を思い出します。鳥取こども学園「学園だより」は1997年に創刊され、以来年2回の発行を続け、今回50号を迎えるに至りました。発行目的を当時の理事長尾崎良一は、「ガラス張りの透明な運営と、現状の公開、情報の開示である」と述べています。この姿勢は1906年、鳥取こども学園が「鳥取孤児院」として創立された当初より「鳥城慈善新報」を発行し賛助して下さった方々への報告を続けていたことを思い合わせます時、「学園だより」の意義を更に深く重く感じます。また藤野興一理事長も、「公的に社会から大切な子どもをあずかる児童福祉施設は決して密室であってはならない。公的なお金を使っているからというばかりでなく、情報公開は子どもの人権を護る立場からも必要である」と述べています。50号の発行を迎える今、創刊の目的は変わることなく受け継がれていることを改めて感じます。

創刊以来4半世紀、時代の、社会の、地域の要望にこたえながら歩み続けてきた鳥取こども学園には多くの施設、事業所、作業所、研究所が生まれ、「学

園だより」は質も量も増えました。毎号に載せられる理事長、園長、館長、院長、所長等の寄稿からはその行間に社会福祉に対する熱い思いと、こども学園の歴史を受け継ぎ更に進むという強い決意があふれ、頼もしく力強く感じます。施設長、事業所長をはじめそれぞれの施設職員の方々の報告からは、子どもたちや利用者への深い愛情と、自身への謙虚な姿勢が窺え、「子ども一人ひとりの命をばくくみ育て、みんなが育ち合うことを理想とする」という学園の基本理念の毎日であることを実感します。そして子どもに限らず小さくされた者、弱くされた者への愛の日々でもあると確信し、真のキリスト者の姿を見る思いがいたします。またそれぞれの寄稿を通して子どもたちや利用者の現在をかい間見ることが出来る事も感謝です。

現在学園は、公的支援を受けると共に、学園へ心を寄せて下さる多くの方々のご支援で運営を続けています。「学園だより」はこの温かいご支援に対する感謝を込めての発行でもありません。

「継続は力なり」という強い言葉があります。学園の場合は、「継続は愛なり」です。民間のキリスト教社会事業として、鳥取教会の皆さんをはじめ、多くの方々の愛に支えられ見護られてきた鳥取こども学園です。100号、200号を迎える日が来ることを祈ってやみません。

学園だよりのバックナンバーは、鳥取こども学園のホームページ内「鳥取こども学園後援会」でご覧いただけます。



就労移行支援事業所

# エミライズ

「エミライズ」

「笑み・未来・上昇(Rise)」  
開設しました

所長 植田 憲治



米子駅近くの事業所の窓から覗く米子城址周辺の木々も、開所当初の緑からめっきり秋らしい雰囲気の様変わりしました。エミライズが開設し、3か月が経ちます。事業内容としては、障がい者手帳を持っておられる方や医師の診断のある方で「就労をを目指す方が原則対象となる「就労移行支援事業所」です。ただ、開設理由の一つにもなったサポステ時代の支援も継続している事から、手帳の有無は実際には関係ありません。仕事の事



でお悩みの方へ勇気の一步を踏み出す支援ができるよう、100%のオーダーメイド支援で、誰でも無理なく通えて就職を目指す場所にして参ります。

就職に必要とされる

- ① 生活力
- ② コミュニケーション力
- ③ 就業力
- ④ 職場定着力

の四つの力をスタッフと共に育んでいきたいと考えています。利用者の方の「持ち味」を一緒に模索していきながら、常に寄り添った姿勢を忘れず、地域に根付いた支援に努めます。

当法人が東部だけでなく、鳥取県全域で貢献でき地域に必要な事業所を目指します。



相談室

## 新任職員の自己紹介



職業指導員  
大本 加納子

7月よりお世話になっております。昨年ジョブカードを書いていただいたご縁から鳥取こども学園を知り、米子市での就労移行支援事業所を開所すると知り、思い切って応募し働けることになりました。

ひとりひとりによりそった支援ができたらと思っています。よろしくお願ひします。



事務員兼就労支援員  
川上 忠芳

縁がありまして、8月より皆様とお仲間になることが出来ました。新たな仕事で戸惑うことばかりですが、利用者様のために頑張っていけます。よろしくお願ひします。



生活支援員  
多田 和美

初めまして。7月から生活支援員としてお世話になっていきます。

利用者さん一人ひとりにしっかりと耳を傾け、寄り添った支援員を目指し日々、取り組んでいます。

まだまだ分からないことも多いですが、笑顔でいることをモットーに頑張ります。

児童養護施設

## 鳥取こども学園

1年半を振り返って

ひまわりホーム  
保育士 出口 洋貴

今年もはや1年が過ぎようとしていきます。僕もひまわりホームでの生活が始まり1年半が過ぎました。一昨年までは乳児部に在籍していましたが、環境が変わった1年目は日々の生活をこなすのに必死でした。今年は少し余裕ができたように感じますが、実際は日々子どもたちの気持ちとぶつかって悩まされてばかりです。例えばホームでWi-Fiが使いたいからと約束を話し合っても、なかなかおりが合いつけられず納得できなくて話がまとまらなかったり、なかなか学

校に気持ちが向かなかつたり、学校からの呼び出しがあつたりとどうしたらいいのか分からなくなりました。僕の性格上「せつ知らない」といつか逃げ出したくなりますが、そんな時に救ってくれるのは一緒に問題に立ち向かつてくれる同僚や先輩、後輩でした。一緒に考えアドバイスをくれたり、ただひたすら思いを聞いてくれたり、僕が子どもと距離を置いている間をとりもってくれたり…。時には職員同士で意見が分かれることもありました。お互いの思いを尊重してくれとも心強く思いました。子どもたちとも話し合いをし前に歩きますことができ、このメンバーならどんな問題にも向かい合える」と職員間の連携の大切さを実感しました。日々子どもたちと全力で楽しみ、時には一緒に悩み1日1日積み重ねて学んでいこうと思えます。

### 育ちあう中で…

たんぼぼホーム

児童指導員

太田 育美

たんぼぼホームは毎年夏休みに海水浴や川遊びに行っています。今年と同じブロックのさくらホームとコロナ対策しつつ合同で海水浴へ行きました。久しぶり

の海とBBQに子どもたちはキャラクター言いながら大ハッスル!!途中で参加した高校生は海に入るつもりは無かったのに、我慢できずに飛び込んで思いのほか喜んでいました。子どもたちが楽しみにしていたBBQはお肉はもちろん、大好きなマシマロも焼いてニコニコが止まりません。高校生が下の子をかまってあげて大はしゃぎしていたかと思いきや、小さな蟹が怖いと大泣きする最年少…といろんな意味で賑やかでした。

私はたんぼぼホームに来て4年目になります。私が来たばかりの時に最年少だった子が、今では小さな蟹に泣いている子が泣き止むように、その子の手を引いて別の遊びに誘ってあげている優しい姿を見ました。いつの間にかこうやって成長していたのだなと思いきや、別のことで怖がる姿が…。まだまだ可愛らしい所を見て笑ってしまいます。

去年とは子どものメンバーが少し変わり、また新しい風が入ってきました。これから色々な出来事が起きて子育てに悩むことが多々あると思います。その度に子ども、職員とみんなで乗り越えて、絆を強くしていくと同時に、私も一緒に成長していきたいと思っています。

### 半年が過ぎて…

こすもすホーム

保育士

河田 和人

男三兄弟の中で育ち、男子のつくしホームで9年間生活をしてきた私にとって、今年度大きな変化が訪れました。女子のこすもすホーム職員となったのです。幸いにも、以前からこすもすホームのこともたちこの関わりはありましたが、小学生以下が多いつくしホームの年齢層とは大幅に異なり、ほとんどが高校生以上の女子。男子に囲まれていた私にとって、共に生活となると、未知の領域でした。現在半年が過ぎましたが、日々勉強させられることばかりです。その中でも一つ、弁当についてのエピソードを紹介したいと思います。

皆さんは【茶弁】という言葉聞いたことがあるでしょうか? 正式な単語ではないですが、俗にいう肉や揚げ物ばかりの弁当を指す言葉で、私が今まで食べた男子に用意していた弁当はまさにこの茶弁だったようです。そんな事すら知らぬまま、4月当初にこすもすホームでも同じ具合で作ったのですが…やはり訳が違いました。また、彩りだけでなく品数、盛り付け方など課題は山積みで、現

在に至るまで何度も子どもたちからご指摘を受けています。

さて、この弁当作りが私にとっては一大任務です。前日の夜からメニューを考え、早朝から手際の悪い調理が終わるまで予断を許しません。ただその代わり、この任務を遂行した後の達成感たるや…更に、余ったおかずを朝食時に食べてくれている姿を見ると、それは何とも言えない幸福感です。たかが弁当、されど弁当。こんなに弁当で一喜一憂しているのは、現在この法人で私が一番と言っても過言ではありません。

小さい事、些細な事に思えてもことごとく大切なこと。これからも今ままで気がつかなかった感覚を磨いていこうと思えます。



乳 児 院

### 鳥取子ども学園乳児部

#### 子どもたちからの

#### プレゼント

保育士 油 浅 友 子

「コロナ禍での生活が始まり間もなく2年を迎えようとしています。感染予防のための行動制限を余儀なくされた環境の中でも、元気づけに遊び回る子どもたちです。今回は、3ホームから寄せられた「子どもたちからパワーをもらったエピソード」をお伝えしたいと思います。

#### ◇Aちゃん

生後2カ月で乳児部に来たAちゃん。人見知りが強く初めて会う人には大泣きをして職員から離れられません。2歳目前まで人見知りを貫き通したAちゃんは、3カ月前から里親と交流を始めました。ゆっくりゆっくり時間をかけて里親との距離が近くなってゆきました。今では里親が帰る際にぎゅーっとハグをすることがルーティンになっています。ハグされた里親はにっこり、その様子を見て私もにっこり。人見知りがトレードマークであったAちゃんが、ひとつハードルを越えて自らハグをする姿に、感慨深いものがありました。

#### ◇Bちゃん

初めて見る物やする事に対して「怖いからいや」と少し臆病で怖がりのBちゃん。でも、最近では「○○ちゃん(職員)がいるから大丈夫?」との言葉に「大丈夫だよ」と私が声を掛けると、怖がらずに楽しんで挑戦するようになりました。Bちゃんは大人から「信頼」というパワーをもらい、一歩前に踏み出しました。そんなBちゃんの姿をみて、私も「子どもたちのためにたくましくなると決心するパワーをもらいました。」

#### ◇Cくん

一緒にテラスで遊んでいる時、Cくんが私の腕にあるすり傷を見つけてました。しばらくその傷を見ていたかと思いつつ、小さな体を壁にトンとぶつければ「よしゅん、いいいいいいいい」と言いがらぶつくりとした小さな手をピンと伸ばして私のすり傷にあてがってくれました。当時はまだ2歳にもなっておらず、話せる言葉も少なかったCくんが片言の言葉と体での表現で伝えてくれた優しさに、私の胸はパワーでいっぱいになりました。

#### ◇Dちゃん

乳児部から児童養護施設へ生活の場が移った子どもの誕生日のお祝いをしました。久しぶりに乳児部に来たDちゃんは、はにかみながらも「ニコニコと嬉しそうな表情でした。Dちゃんは「小さい時、

これでよく遊んだよね」「アルバムにあったから覚えてる」など乳児部での生活をよく覚えており、○○だったよね」と一緒に懐かしみました。乳児部での生活をしつかり覚えていたのだと嬉しく思いました。子どもたちの素敵な思いが詰まった育ちの場となるよう頑張りたいと感じました。

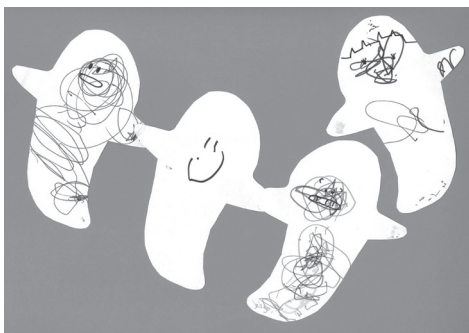


「わたしの好きなハーマイオニー」

子どもたちからは日々多くの驚き、喜び、そして自己の反省の機会をもらっています。体と心の両方で思いきりぶつかってくる子どもたちを受け止めきれず、途方に暮れることもあります。次の瞬間には大きなパワーを与えられ、私の方が育てられているような気がします。私は保育士になり1年半ですが、年齢は人生の中盤を過ぎていきます。老婆心と言われてしまいますが、子どもたちの10年後、20年後、30年後...どんな仕事にしているのだろうか、どんな家庭を作っているのだろうか、どんな幸せな人生を過ごして欲しいと心から願っています。そのために私たちは、「○○ができるようになった」といった目の前の出来事だけではなく、将来の子どもたちの幸福と健康、生きる力(レジリエンス)につながるような経験を共にすることが大切だと考えています。

上記のAちゃん、Bちゃんは信頼という「安心の基地」があったからこそ踏み出せた一歩です。私という安心の基地はまだまだまだ未完成ですが、子どもたちからもらうパワーを原動力にして、安心して離発着のできる堅固な基地となることを目標に、子どもたちの成長の支えをしていきたいと思います。

「心を尽くし、精神をつくし、力を尽くし、思いをつくして、あなたの神である主を愛しなさい」(ルカ 10-27) 私にとって遠く輝く、北極星のような言葉です。



「おばけちゃん」



児童心理治療施設  
**鳥取こども学園希望館**

「どうしたらいいの?」  
と向き合いながら

副館長 水野 壮一

人間生きていけば日々、「困ったな」と悩み迷います。「そんな経験一度も無いよー」って人はまずいないと思います。希望館でも入所部門と通所部門の子どもと職員、総勢約60名分の、カラフルな悩みと迷いが毎日のように飛び交っています。

子ども達は悩めます。学校生活や進路など現在と将来に関する事、友人や家族や職員などの人間関係、生活やお金に関する事、不安や悲しみなどにすること…挙げればきりがありません。すると、大人(職員)達も悩めます。子どもが悩めば連動して大人も悩む。これは希望館の不変の法則、もしくは「摂理」と言い換えても差し支えないうつろい。もつと支えて役立ちたい、上手に伝えられない、この判断や方針が良いのか?など「希望館ならでは」の特徴的で色濃

悩みに、躊躇せず目の高さを等しくして向き合うことは、私たちの最も大切な役割の一つだと考えます。

さて、悩めば当然「どう解決するか?」と考えますね。よって、多くの「どうしたらいいの?」という相談が飛び交います。仮に「どうしたらいいの?」密度調査」というものがあつたとしたら、希望館では相当高い密度が計測されるかもしれせん。何事もないがしろにせず諦めず、真摯に解決や改善を求めるからこそその現象であり、希望館の良い文化だと思つています。でも、そこが難しい。無駄に経験と年齢を重ねているため、私にもカラフルな「どうしたらいいの?」が届きますが、容易に解決に導けるものはほとんどありません。悩みや悲しみに触れ、何とか役立ちたいと頭をひねりますが、すぐに解決!とはいかない。「視点を改めて〇〇と考えてみよう!」「時間と共に良い方向に向かうはず、焦らずじつくり」などと洋とした答えを返す自分に少し落ち込むこともありま

そんな私が、「どうしたらいいの?」と向き合う時に大切にしている事が二つあります。

一つは希望館が掲げる治療の定義。「治療」とは単に『病気を治すこと』ではなく、『過去や現在の自分や環境との折り合いを付けるために子どもたち・ご家族と一緒に取り組むこと』治療に限らず、「一緒に折り合いを付ける」視点保持はとても大切です。悩みや苦しみに直面すると解決による安寧を求めがちですが、性急な解決ほど危険であり、折り合いを見据えて受け止めたり理解しあつたり自信を回復することで、子どもの長く続く人生に役立つ、しなやかで温かい解決に至るのだと考えます。

もう一つは「希望館は神様の愛と共にある」という事。鳥取こども学園はキリスト教の愛と理念によつて設立されました。希望館もその愛と理念によつてここにあるのだと考えます。(壮大に過ぎるかもしれませんが)2000年前に主イエスがなされたことがあつて、今の希望館があるのだと考えると、悩みと向き合う時おのずと何を大切にすべきかが見えてきます。

もつすべくクリスマス。希望館のみんなで大いに祝福し、改めて私たちがらしく「どうしたらいいの?」と向き合うこと大切さに想い馳せる日にしたいと感じています。

認定こども園  
**鳥取みどり園**

日々の保育の「コマ」を  
ご紹介します。

◎ひよこ組(0歳児)



これ何だろう?

わっかの中のボールを「これは何だろう」と見つめるひよこ組(0歳)の小さな2人。おもちゃを触ったり、握ったりしてたくさん遊べるようになってきました。今後の成長が楽しみです!



◎りす組 (1歳児)



宝物みつけ♡

「あったあー!」嬉しそうに口元をどがらせて可愛い報告。小さい手で大切そうにどんぐりを拾う子ども達。園庭のクヌギの木の下にしゃがみ込んで秋の宝物を集めます。

◎つぎぎ組 (2歳児)



バーベキューごっこ

すいぶんたくましくなってきたうさぎ組の子どもたち。お天気の良い日はできるだけ戸外へ出かけ、しっかり体を動

かして遊びます。お友だちとの関わりも楽しめるようになり、遊びも広がってきました。

◎にじ組 (3歳児)

少しずつ色づく葉の色やどんぐりなどの秋の自然に興味津々の子どもたち。先日、秋みつけに散歩へ出かけました。これ、きいろくなってる」「穴あいてるよ」「きれい」と嬉しそうにみつけるみんな。いっぽいお散歩に行こうね。



秋みつけ

◎つき組 (4歳児)

年長児と手をつないで散歩に出かけた日。Tくん「きれいな空ですね。」「Sく



赤い葉っぱ見つけたよ!

ん「あの雲食べてみたいね。」大きな力エテの葉を拾って「恐竜の足跡だー!」素敵なひとときでした。

◎ほし組 (5歳児)



心を一つに

9月に行われた運動会で、年長児はマーチングを披露しました。たくさんの保護者の前で演奏し終えた後の子どもたちの誇らしげな顔!!たくさんのわくわく・ドキドキを経験しながら、心身共に大きいたくましく成長しています♪



診療所  
**MINOの発達クリニック**

幻想の効用

医師 川口孝一

我が家には、子犬の頃に保健所から譲渡して頂いた現在十三歳ミックスのワンちゃんがあります。私が落ち込んでいた時(これまでの学園だよりを読んでいただいている方々はお気づきだと思えますが、私は度々落ち込んでいます)、セラピー・ドッグの役割も担って私にとろにやってきました。名前をチャッピーと云います。人懐っこく温厚な女の子です(今はお婆ちゃんなのですが)。チャッピーの前には、ハッピー(チャッピーと云う名前は、チャイルド(C)ハッピーと云うことで名付けました)と云うワンちゃん居ました。ハッピーは、娘の幼稚園に迷い込んだ子犬で、誰かが連れて帰ろうと言つことになり、私の娘と帰ってきました。ワンちゃんとしては長寿で十七歳で亡くなりました。老いてゆく姿を見ることや亡くなることの辛さを体験し(ペットロス症候群)、生き物はもう飼いたくないと想っていました。しかし



何年か後に偶然か必然か分かりませんが、チャッピーが私のところに来てくれました。ほぼ毎日私と朝の散歩をしています。

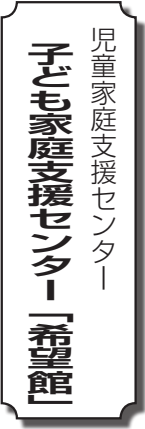
チャッピーは最近では珍しく(ハッピーもですが)外に小屋があります。繋いではなく、広いスペースではありませんが自由に動きまわります。以前柵がしつかりしていない頃は、雷や花火の音にパニックになって脱走していました。近所の方々は皆さん優しいので、そんなチャッピーを保護して下さいます。時には(よく?)無駄吠えもしますがそれも許して下さいます。ありがとうございます。

チャッピーは時にご飯を少し残します。「飽きたのかな?」「具合が悪いのかな?」「歳かな?」と心配になります。そんなある日、柵の間隙から、ある時はスズメさん何羽か、ある時は山鳥さんが飛び立っているのを見ました。もしやと思えばご飯の器を見ると、その周辺に鳥さんの糞が落ちていました。「チャッピーは、鳥さん達にご飯をお裾分けしていたんだ」と、チャッピーがご飯を残す原因が分かりました。それを知って、今まで優しいワンちゃんならどう?と想いました。近所の皆さんのお陰でもあ

るのだと想いました。

これは能天気な私の幻想的(あるいは妄想的)な想い込みなのかもしれませんでもそれで良いのだと思います。赤ちゃんも心を持って生まれてくるのではなく、関わる人が赤ちゃんに心があると想って関わるので、その関わる人の心が赤ちゃんの生地のキャンバスに投影されて彩られ、赤ちゃんの心が育っていくのです。

これからも出逢う子ども達や人々に、願う想いを持って関わられたらと想います。



### いろいろのよりどころ

副所長 岸田有加

心理学には「心の安全基地」という考え方があります。それは子どもが親(養育者)に無条件で受け止めてもらえると、いつ経験から築かれる、安心感(信頼関係)により、何があっても受け止めてもらえるゆびひびがあるから新しい

ことに挑戦し、成長していくことができるといふ存在です。

でも、それは子どもときだけではなく、中学生や高校生、もちろん大人にも、必要なのだと思います。不安になったら帰れる場所、安心して受け止めてくれる存在、自分らしくいられる趣味など、自分の心がホッとできる、よりどころがあるから、次に向かうエネルギーをチャージできるのだと思います。

ストレスの多い昨今、自分が自分らしくいられる、よりどころを大切に、子ども家庭支援センター「希望館」も相談に来られる方のよりどころになればと思います。

### 最近感じること

セラピスト 滝河真理

子ども家庭支援センターへ相談に来所してくださっている子どもさんたちや親御さんのお話の中で、そのように考えておられたのか、そういう思いを持っておられたのか、という気付きを得ることがたくさんあります。先日研修を受けた中で、お互いが育ち合う関係性、相手があるからこそお互い成長していくことができるという話をお聴

きました。相談業務において職員と相談される方という関係性のベースはあるにしても人と人の関わりには変わりなく、お互いが育ち合いをしていけるのであれば、素敵なことでもあるのかなと思いは始めているこの頃です。でも私の方が来られるお子さん、親御さんから成長要素をいただいているように思っておりありがたいと感じています。それ以上に返せるものがあるよう日々関わりを続けさせてもらえるとありがたいなと思っています。

### 大切にしたいこと

相談員 松本史哉

新型コロナウイルスが出てきて、早くも2年が経とうとしています。今では、様々な情報が出回っており、これまでの認識とは違った点も出てきています。そのため、何が正しいのか、何が正しくないのか、よく分からなくなっていることもあると思います。

テレビが言っているから、新聞でこう書いていたから、みんなが言っているからではなく、自分で情報を集め、考え、納得し、自分なりの価値観を作り上げていくことが、これからの時代を生き抜いて



く中で大切になることだと改めて感じています。

しかし、その価値観はあくまで自分だけのものであり、それを相手に押し付けることはあつてはならないと思う毎日です。

相談に来られる方も一緒に、その方にとって何を大切にしたいのか、どうありたいのかを考えていきたいらうと思ひます。

※家族・子育てについての悩みや、子どもに関するあらゆる相談に応じています。

相談料は無料です。

○電話相談

月曜日～金曜日 朝8時30分～夜12時

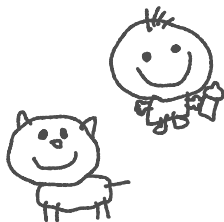
(緊急の場合は、休日・祝日・時間外も24時間対応)

○来所相談

開所時間 月曜日～金曜日

朝8時30分～夕方5時30分

専門の相談員が対応します。



### 鳥取県里親養育包括支援事業 里親支援とっとり

そうだそうだ！ぼくはそうしてほしいんだ！

所長 遠藤 信彦

先日、川崎医療福祉大学の重松孝治先生を講師に迎え、発達につまずきのある子どもの支援についての研修をオンラインで開催しました。大きな学びがあったのはもちろんのこと、受講した里親さんと、その家庭の里子さんのエピソードに感じ入るところがありました。

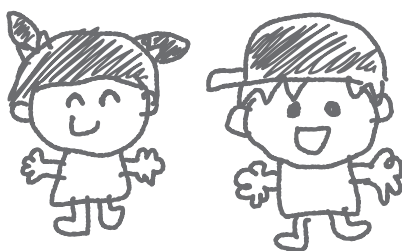
「他の子であれば40分集中できることでも、その子は5分しか集中できないとします。でもその子はその5分をふんばってがんばっている。40分やりなさい、というのは、われわれが『じゃあ今日から8倍の時間働いてください』と言われるのと同じです。もし5分を8分に伸ばせたのなら、すごいことだと思ひ切り褒めてあげてください」という助言がありました。ある里親さんのおうちでは、里親さんがオンライン研修などに参加するとき、長時間一人で過ごすことができないのか、里子さんのかわいらしい

お顔がいつも画面いっぱい登場しますが、この日は講義が終わるまで一人遊びをして待ってくれました。里親さんはさすがすっかりお礼を伝え、褒めたそうです。助言をすぐに実行する、スポンジのような吸収力に脱帽しました。

別のご家庭の、登校しぶりがある里子さんについての相談には「ふんばってがんばって学校に通っている状態であれば、それ以上がなれば」というのは酷です。給食メニューが嫌なのか、友人関係に困っているのか、本当にいやなことを聞くことが先です」という助言がありました。里親さんのかたわらで、その子が講義を聞いており、いつもの調子であれば「いつまでほったらかすんだ」とか「勝手にぼくのことを相談しないで」といった真合におずかりそうなのものに、この日に限っては、講師の助言に対し「そうだそうだ！ぼくはそうしてほしいんだ」と答えていました。講師を自分の代弁者と認めたのでしょうか。

講義の最後に、里親さんへのエールとしてこう締めくくられました。「発達につまずきを持つ子どもは変化が苦手です。そして、つまみかかっている自分も、そつでない自分であっても、変わらず受けとめてくれる存在が必要です。子どもを取り巻く環境は、とりわけ人間関係

は、年齢につれ急激に変わります。小さい時であれば受け入れられていた言動でも、小3を過ぎればまわりに許されなくなるかもしれません。里親さんだけは、毎朝変わらず、笑顔でおはよう、と喜んであげてください」とのことでした。数多くの子どもたちへの支援を実践してきた講師が語られることばのひとつひとつに、深い愛情と敬意が感じられました。子どもたちの育ちと気持ちが本当に分かるまで、僕はまだまだ勉強が足りません。こうした生のことばとエピソードを、腑に落ちるまで噛み締めながら、これからも里親さんとともに学んでいきます。



自立援助ホーム  
鳥取フレンド  
鳥取スマイル

些細な出来事

鳥取スマイル

寮長 竹中愛彦

早いもので、今年度より新体制で鳥取スマイルをスタートさせて半年が経ちました。

4月当初から、トラブルの連続で日々を振り返る間もなく怒涛のように過ぎ去っていったように思います。

ルールの逸脱・家出・喧嘩・OBの引きこもり等あげればきりがありません。こんな状況に頭を抱え悩みながらも、「自立援助ホームらしいよね。」と日々、子ども達に寄り添い寝食を共にしてくれるスタッフには本当に感謝しています。

現在、鳥取スマイルは男子6名の子ども達と共に生活しています。子ども達は様々な境遇の中で育ち、多様な個性から社会で生きていくことへの難しさを抱えています。

先日、新規入所した子が食後にテーブルを拭きだしたので様子を見てみると、自

分が食事した場所だけを拭いています。

「せっかくだからテーブル全体を拭いてくれると助かるんだけど。」と伝えると、「僕が食事したのはここだけです。」と納得いかない様子…。

「横にもお茶が少しこぼれてるよね? (本当はこれを拭いてない子が悪いのですが…) そのままでも嫌な気持ちにならない?」と聞くと、「別に構いません。僕のじゃないから。」と不満そうにしています。

話を聞くと、家庭ではテーブルを拭いたこともなかったようです。スマイルに入所して食べた場所べらい綺麗にしようとした、その子なりの努力でした。

私は軽い気持ちのお願いのつもりが、自分の常識を押し付けていたのです…。なぜ私は最初に褒められなかったのか…。と、深く反省しました。そして、その子の気持ちや努力を認め、共同生活なのでそれぞれが助け合いながら気持ちの良い生活を心掛けて欲しいと伝えました。

ほんの些細なことですが、日々、ホーム内のあらゆる場面でこのような出来事が起こっています。私達の普通や常識がここに来る子ども達にとっての当たり前とは限らない。様々な境遇の中にもそれぞれの文化や常識があります。時には立ち止まり私達の言葉が子ども達への押し

付けになっていないか確認する大切さを改めて感じました。

私自身まだまだ未熟で、後悔や反省の連続です。まずは褒めることから始めることに留め、今後も子ども達が『自立』のスタート地点に立てるよう寄り添っていきたいと思います。

関係機関の方々、ご支援いただいている皆様には、日頃よりご理解とご協力いただき感謝しております。今後ともよろしくお願ひ致します。

鳥取養育研究所

子どもアドボカシーの  
取り組み

副運営委員長 坂口 泰司

アドボカシーとは、一般的には「擁護・代弁」の意味をもちます。児童福祉の現場でも、自分の意思をうまく伝えることのできない子どもに代わって、代理人や支援者が意思や権利を伝えるといった意味で使われます。しかし、本質的なアドボカシーとは本当にそのなのでしょう

うか?

鳥取養育研究所はアドボカシー研究会という事業があります。2019年12月1日、鳥取県内の児童養護施設等のユース(児童養護施設等で生活する子どもとその出身者(30歳以下))を中心に、Hope & Home(以下H&H)が発足し、アドボカシー研究会はH&Hの活動のサポートを行っています。H&Hの活動はユースと大人と一緒に子どもたちの権利を学び、施設で生活する子どもたちが意見を表明し、ユースと大人がパートナーとなって問題解決をします。つまり、子どもたちの声を施設や県・国、社会に届けることを目的としています。

2020年10月に鳥取県内の児童養護施設のユースと職員で1泊2日の合宿を実施し、レクリエーションや権利の勉強をし、会の終盤にはユース自身が主張したい意見や考えをまとめて、参加者の前で発表しました。発表前は、「自分の発言が施設や職員、児童相談所への批判にならないか?」「後で何を言われるかわからない」と不安な声も聞こえてきたがユース同志で励ましあいながら、最終的には堂々と自分の意見を言うことができました。2021年3月にも提言検討会を実施して同じメンバーが集まり、合宿の時に発表した意見を意思決定



者(各施設長、児童相談所所長、鳥取県)に伝えるために、提言としてまとめる作業を行いました。同年8月にはオンラインによる公聴会を開催し、H&Hのユーザーの声を意思決定者に届けました。提言の中身は公表することはできませんが、一人ひとりのユーザーが

- ① 問題はなにか
- ② そのとき、どんな気持ちか
- ③ あるべき状態は
- ④ 解決方法は

をポイントにして、自分たちの生活をより良くするために勇気をもって堂々と発表していました。オンラインで画面越しのメッセージが意思決定者にどのように届いたかは分かりませんが、緊張と不安の中、一生懸命に発表したユーザーたちの声をしっかりと受け止めていただき、児童養護施設で生活する子どもたちの生活がより良くなるように動き出していただきたいと思います。また、9月には鳥取県アドボカシー機関設立準備会が開かれ、そこに当事者としてH&Hから代表のユーザーが参加しました。これはとても大きな一歩だと思っています。

鳥取県の目指すアドボカシーは、自分の意思をつまく伝えることのできない子どもに代わって、代理人や支援者が意思や権利を伝えるのではなく、子どもと大

人がパートナーとなって一緒に権利を考え、一緒に子どもを施設や県・国・社会等に届けていくものにしていきたいです。

障がい福祉サービス事業

### はまむら作業所

ほどほどに働け、

ほどほどに食べ、

ほどほどに語り合おう

管理者 山岡 宏樹

季節は夏から、秋にかわり、私達の事業所もお米の収穫の時期となりました。恐ろしかった夏の豪雨の影響の被害もなく、また台風の影響もなく、今年も美味しくつなご米がたくさん収穫できました。お米の収穫の際には、利用者さんと田んぼに向き、地域の方、業者さん、空中を飛び鳥たちと収穫の様子を見守り、「何だか無事に収穫できてうれしいなあ」と、お互いにニタニタしていました。また、別の日には、同法人の乳児部の子ども達やスタッフの皆さんとサツマイモ掘りを一緒に実施、実りの

秋を感じました。一時は、イノシシが全部先に試食してしまい、別の畑に再度植えなおしたサツマイモ。はまむら作業所スタッフと「お、無事だがな、芋できてる!!」とお互い顔を見合わせ、これも小さな感動があり、ほっこりしながら収穫の様子も見守り、時間を一緒にしました。ほんのちよつとになります。販売はこれから、お楽しみに。

私達の事業所内でも、先日、新型コロナウイルス感染症予防に気を付けながら、久しぶりにサンマをスーパーに買いに行き、はまむら作業所のメンバーと一緒に炭火焼きをし昼食しました。普段の作業は少しお休みし、火を一からおこし、新米を炊き、お味噌汁やおひたしを用意しました。頭の中には、「コロナ予防、コロナ予防」と少しノロイのような物はつつすらありましたが、久しぶりの日常生活に近い活動。はまむら作業所スタッフも利用者さんもぼちぼちのんびりできました。時間としてはそんなに長くないです。しかし、普段の作業と違い慌ただしさはそんなになく、時間がゆったりながれる事、普段あまり語らない利用者さんと力の入り過ぎない時間をそばで感じられた事、よかった気がします。時々だけでも、この時間が続くように願いたいところです。第6波、7波こない

で(懇願)。

こんな時代だからこそ、日々働く原動力を大事に、はまむら作業所の仲間達と過ごす時間を改めて大事にしたいと思っています。就職活動、工賃の為の就労活動等はもちろん継続します。しかしそれだけでなく、「また明日!」とプラスに思えるエネルギーの時間も作り続けたいです。私達の事業所は、すぐきれいな立派な設備はないが、ぼちぼち語る事を大事にできる時間がある、そんな事業所に再度していきたい、その為にはないものねだりしない、事業所のスタッフと日常を見直してみようと思っています。当たり前前になっっている事を少し見直し、利用者さんが活動し易い事を毎日つかかさねていく、そして毎日活動していける力を作りたいと思います。二度と戻らない貴重な時間を大事にしたいです。明日からもはまむら作業所をよろしく願っています。



# とろっぴらんど

事業所内保育施設

## 子どもの思いに よりそって

保育士 前田 小百合

園の日常生活では、今しか聞けないつばやきやかわいい姿に出会います。たくさんのお友だちや保育者から吸収している子どもたちの様子をご紹介します。



虫を探している様子

### 子どもの可愛いつばやき・姿をご紹介します

☆0歳児Aちゃんが段ボールから出られず泣きそうになると、1歳児B君が段ボールをそっと倒し、出してあげようとしていました。自分が入りたかったのかな?と思いましたが、出してあげるのが目的で、小さいお友だちに優しく接する姿が見られました。

☆新型コロナウイルス感染症防止の為、マスクを着用での保育が日常化している中…

子:「んじいたい。」(心配そうに…)

保:「えっ」

マスクの下からひよっこりのぞいているシミでした…(笑)

保:「ありがとっ。痛くないよ。大丈夫だよ。」

子:「んじい」

とても目が良く小さな事でも気になる〇君。保育者へ優しい言葉をかけてくれました。

紫外線対策も大事ですね。

☆保育室の窓越しから外にいる保育者に…

子:「おーい、せんせー」(何度か呼び保:「せんせー」だけじゃ何先生かわからんぞっ」

子:「おーい、ナニセンサー」



カタツムリを見ている様子

保育者の言葉をそのまま言ってしまう可愛いしぐさでした。

☆着替えをするとき…

保:「パンツー」(介助をしながら)

子:「ジャンパー」

・おかたづけ↓おたかづけ

・さかな↓かさな

・うしろさこ↓うしろさこ

・おひらひ↓おひらひ

子どもの言い間違りは可愛いしぐさ、思わず笑みがこぼれます。

☆朝の会で自分の名前を呼ばれたら、「はい」と手をあげられるようになってきました。0歳児さんもお兄ちゃんお姉ちゃんの真似をして、上手になって来ました。自分の番を期待して待つ姿もとっても可愛いぞっ。



おままごとをしている様子

☆保育者の「おしっこ行くよ」の言葉に反応して、自分のロッカーから張り切って紙パンツを持ってくる0歳児さん。得意げに持って来て、「すごい!」と褒めると、手をパチパチして自画自賛。ほっこりします。

子どものつばやきは「思っ」「気付」が多く、保育者も寄り添いながら受け止め、共感することを大切にしています。そして子どもたちからも沢山のことを教えてもらい、保育者も成長していきます。



# 退所児童等アフターケア事業 ひだまり

## 夜明け前が一番暗い

就労支援員 山根潤子

ひだまりは、鳥取県内の児童養護施設、里親等を退所した方や、退所を控えた児童へ社会的に自立した地域生活を継続的に営むことができるよう、きめ細やかな支援を行う機関です。生活支援・就労支援・自立研修開催・施設出張訪問（キャリア形成支援）等を実施しています。

今回は私たちの取り組みを少し紹介します。

まずは、OB・OGのアフターケア支援です。読んでくださっている方の大半は、社会に出た後、困ったことやトラブルに直面したことがあるのではないのでしょうか。人間関係、仕事、お金、健康、生活環境における問題から、もう案になりたいと思うこともあるかもしれません。本当のしんどさが、表立つ問題に隠れている場合も。相談できる相手や窓口を複数知りゆるりとながっていればきつと気持ちや問題の面で緩和すること



オンライン自立研修・OBトークショー

ができるでしょう。関係機関と一緒に解決に向けてお手伝いをしている相談機関のひとつである「ひだまり」を思い出してもらえたら幸いです。

では具体的に何を行っているか？退所後に、困ってからいきなり知らないところに相談するのはハードルが高い人もいます。そこで、近年は、入所中から施設職員や関係機関の力を借りながら児童と関わる機会づくりにも力を入れていきます。今年度は、因伯子供学園さんの学園行事や里親サロンに参加させてもらうなど大変貴重な機会をいただきましたことに、改めて感謝いたします。

また、ソフトバンクチャリティ×赤い羽根共同募金の助成金を受けオンライン自立研修や、職業見学・体験の機会提供、職員さん向けの出前事業説明、出張自立研修、進路・就職の面談実施、希望する高校生に対して進路選択のきっかけや経験値のひとつになればとひだまり通信 for teens の紙面作成にサポーターとして声かけをし参加してくれた高校生もいます。通信の特集では、中高生に役立つ情報発信を目的として県内の施設職員を対象に、アルバイト経験についてアンケートを実施。80名以上の回答がありました。集計結果は通信紙面内でお知らせいたします。

まだまだできることは少ないですが、ニードやニーズを探り、コンテンツを作り提供し、柔軟に児童の将来を作るお手



職業見学

伝いや退所後のアフターケア支援をさせていただきます。

最後に、自助グループ（レインボース）の活動も行っていきます。例年、仲間づくりや助け合いの場として工夫を凝らし交流を実施しています。この1、2年思うように開催できずもどかしい気持ちでしたが徐々に再開していく予定です。

これからも引き続き、「ひだまり」は立ち止まらず、時代に即した活動を展開したいと考えています。現場で働く職員さんを始め、関係機関、心を寄せてくださるOB・OGの皆さま方のご支援お力添え等、よろしくお願いたします。



ひだまり通信 for teens ・ 記載4コマ漫画

# 当学園事業へのご寄付 後援会へのご加入に 感謝申し上げます。

前回報告以降、現在まで、ご寄付いただいた方々、  
後援会に賛同（会費納入）していただいた方々は、  
下記のとおりです。  
心より感謝し、ご報告申し上げます。

## 寄 付 者 (R 3. 5.13 ~ R 3.11. 9)

敬称略

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
谷 口 香 与 子	浜 崎 欣 司	日 海 通 信 工 業 (株) 鳥 取 支 店	(特 非) Living in Peace
喜 多 寿 子 美	米 村 明 子	支 店 長 宮 城 美 智 男	砂 川 晋 治、真 理
マ 工 夕 八 ル	山 本 本 直 美	宮 本 一 郎	(株) ミナミコーポレーション
柴 田 和 仁 芳	濱 本 本 義 則	(株) コ 夕 二	代 表 取 締 役 岡 本 安 量
藤 原 毅 忠 篤	井 手 添 内 亮 子	南 英 語 塾	山 田 隆 夫
(有) 鳥 取 シ ス テ ム サ ー ビ ス	竹 中 中 薫 子	伊 藤 祥 子	平 尾 正 人
山 田 太 郎 恵	田 中 田 健 司	(医) きむら耳鼻咽喉科医院	中 村 匡 子
川 口 敬 恵 一	村 上 上 悦 子	幸 野 豊、小 出 伸 行	伊 藤 文 代 子
大 田 谷 恭 明 子	村 上 上 悦 子	谷 口 享 弘、田 澤 建 二 郎	田 賀 由 美 子
石 倉 倉 洋 子	小 川 尚 美	堀 内 苑 生	濱 田 久 美 子
片 倉 倉 夏 実	(株) 大 成 リ ア ル エ ス テ ー ト	(医) さ と に 田 園 ク リ ニ ッ ク	清 水 圭 二
中 里 晋 貴 裕	木 下 尚 則	(有) 岩 田 小 型 運 送	加 藤 和 徳 子
小 田 切 鍋 沼	福 原 谷 孝 洋	滝 村 三 千 雄	山 名 祐 子
大 西 村 川 公 奈 緒	江 鈴 齋 増 山	川 口 正 成 俊	若 桜 柿 坂 医 院 武
古 山 本 本 緒	山 本 原 知 晴	田 中 俊 道	青 木 美 保 子
尾 脇 電 機 (株) 玉	小 藤 原 中 成	森 田 元 章	日 本 基 督 教 団 用 瀬 教 会
福 谷 志 純	田 川 川 短 期 大 学	小 橋 房 子	栗 本 悦 子
青 上 嶋 木 電	福 島 卓 庸 二	武 安 雅 子	(株) 信 勝 丸 漁 業 人
(有) 柏 木	(株) 田 中 鉄 工 中 敏	(医 社) 乾 医 院 院 長 乾 俊 彦	代 表 取 締 役 山 岡 寛 人
田 村 正 博	古 川 潤 康 美	木 本 裕 治	岩 田 美 代 子
畑 山 下 敏	三 木 沢 吹 丸	西 村 建 次 武	安 本 良 栄 子
竹 下 努	伊 吹 丸	岡 田 武	い し ど 歯 科 ク リ ニ ッ ク
三 代 西 上 の 洋 館 治	丸 林 督 哲	鳥 取 鶏 卵 販 売 (株) 代 表 取 締 役 長 田 淳	小 竹 原 寛 子
佐 野 信 昌 文 子	正 中 水 田 藤 信	(株) メ モ フ ワ ー ル イ ナ バ 志	山 下 孝 子
高 杉 村 英 正 弘	中 水 田 藤 信	代 表 取 締 役 圓 井 貴 志	ト ラ ン ス ポ ー ト 鳥 取 (株) 代 表 取 締 役 中 口 尚
福 長 正 義 明 臣 (有) 谷 義 明	田 中 井 崎 村 本 竹 中	藤 原 雅 夫 子	(有) 橋 本 ス ポ ー ツ
タニグチ・ヘア・サロン 谷 義 明	藤 信 中 井 崎 村 本 竹 中	前 田 悦 子	橋 本 ス ポ ー ツ
藤 井 喜 臣 (有) 工 起 充 子	藤 信 中 井 崎 村 本 竹 中	は や し 社 会 保 険 労 務 士 事 務 所 義 雄	横 川 佳 菜 子
パ ル ス 電 工 (有) 起 充 子	藤 信 中 井 崎 村 本 竹 中	天 德 寺 明 子	横 木 原 康 子
安 岡 弘 起 充 子	藤 信 中 井 崎 村 本 竹 中	藤 井 重 明 子	木 住 友 谷 笑 子
石 谷 和 健 道 次 男	藤 信 中 井 崎 村 本 竹 中	リ セ ッ プ 智 子	広 福 寿 本 妙 子
田 中 邊 藤 道 次 男	藤 信 中 井 崎 村 本 竹 中	蔵 本 美 知 子	安 松 本 月 子
渡 佐 藤 道 次 男	(株) 森 下 久 平 商 店 年 下 泰	岡 田 福 寺 子	望 竹 田 江 海 子
堀 尾 英 樹	谷 口 山 玲 子	大 塚 福 子	加 藤 礼 子
		(有) 造 園 土 木 植 清 園 巖 子	ゆ う わ 総 合 法 律 事 務 所 介
		東 邦 子	池 尾 真 理 美
		(学) 愛 真 幼 稚 園 衛	前 住 昌 宏 子
			綜 合 印 刷 出 版 (株) 齋 藤 智 子



氏 名				氏 名				氏 名				氏 名												
西齋	村	孝	一	川	口	孝	一	(有)ウ	コ	ン	自	動	車	鳥	取	東	更	生	保	護	女	性	会	
橋	木	一	紀	溝	口	好	美	常	井	幹	生	子	院	芝	岡	田	永	隆	陽	明	美	眞	子	
柴	詰	一	枝	井	須	尚	紀	岡	村	紘	子	院	ど	柴	田	永	陽	朱	明	美	眞	子	久	
吉	田	成	妙	北	村	久	美	大	雲	一	晶	芳	茂	野	田	本	奈	穂	子	久	穂	敏	子	
橋	本	真	寺	福	士	和	子	(福)	あ	し	一	茂	子	福	田	本	奈	穂	子	久	穂	敏	子	
李	本	明	澄	黒	川	千	里	理	事	長	光	岡	芳	株	木	木	奈	穂	子	久	穂	敏	子	
押	本	昌	義	藤	田	昭	茂	石	田	谷	佳	蓉	子	玉	木	木	奈	穂	子	久	穂	敏	子	
磯	見	弘	幸	山	根	昭	人	小	谷	谷	佳	蓉	子	鳥	取	更	生	保	護	女	性	会	子	
賀	川	英	美	佐	竹	義	人	小	谷	谷	智	鶴	子	坂	尻	尻	友	理	重	子	子	彦	子	
(株)愛	進	俊	堂	松	岡	太	郎	岡	本	原	潤	哉	品	伊	藤	村	和	俣	子	子	彦	子	子	
岡	部	律	之	中	木	ま	か	信	原	田	潤	哉	品	木	村	崎	正	暢	子	子	彦	子	子	
馬	場	孝	子	内	込	多	子	原	湯	所	潤	哉	品	尾	崎	原	正	暢	子	子	彦	子	子	
錫	木	孝	子	小	藤	紀	方	(有)湯	所	役	潤	哉	品	橋	原	下	暢	子	子	彦	子	子	子	
田	中	孝	子	小	西	慶	治	代	表	取	締	役	油	谷	博	文	昭	子	世	会	患	與	崇	子
西	垣	栄	子	小	田	美	子	秋	幾	西	大	鳥	取	更	生	保	護	女	性	会	患	與	崇	子
藤	原	由	美	三	瀨	香	史	幾	西	大	鳥	取	更	生	保	護	女	性	会	患	與	崇	子	子
吉	田	義	子	德	永	健	太	大	森	琴	鳥	取	更	生	保	護	女	性	会	患	與	崇	子	子
福	田	洋	子	小	笠	奈	子	鳥	取	更	生	保	護	女	性	会	患	與	崇	子	子	子	子	
岸	田	俊	和	長	西	み	こ	会	長	山	賀	曠	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	
前	田	喜	美	北	條	藍	子	小	菅	梅	裕	菜	秀	米	子	信	愛	鍼	治	療	院	店	子	
池	田	美	代	名	高	新	成	菅	梅	裕	菜	秀	米	子	信	愛	鍼	治	療	院	店	子	子	
(弁)菜	の	花	忠	胡	桃	克	成	梅	裕	菜	秀	米	子	信	愛	鍼	治	療	院	店	子	子	子	
代表社員	弁護士	駒井	重	松	岡	力	也	杉	野	津	医	院	枝	恵	一	天	サン	ユ	ー	技	研	工	業	(株)
亀	本	良	一	豊	田	洋	子	(医社)	野	津	医	院	枝	恵	一	天	サン	ユ	ー	技	研	工	業	(株)
齋	藤	基	春	廣	瀨	愛	子	高	力	房	憲	恵	一	天	サン	ユ	ー	技	研	工	業	(株)	子	子
三	浦	伸	子	田	中	晶	子	山	根	憲	恵	一	天	サン	ユ	ー	技	研	工	業	(株)	子	子	
海	藤	ひろ	み	岡	田	浩	子	米	谷	食品	セン	タ	央	望	子	山	中	友	子	子	子	子	子	
(株)清	錦	運	送	鳥	取	こ	ど	稻	葉	田	由	美	子	山	中	友	子	子	子	子	子	子	子	
(有)錦	修	裕	子	チャ	リ	テ	ー	植	田	由	美	子	山	中	友	子	子	子	子	子	子	子	子	
福	上	雅	昭	若	桜	町	民	山	田	ガ	ラ	ス	店	薫	枝	子	子	子	子	子	子	子	子	
井	野	由	紀	尾	崎	歯	科	(有)岸	田	ガ	ラ	ス	店	薫	枝	子	子	子	子	子	子	子	子	
草	垣	宇	太	尾	崎	紀	之	岩	崎	林	さ	か	枝	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	
谷	木	雅	彦	中	村	秀	子	中	林	野	和	富	美	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	
清	水	和	子	米	山	愛	五	浅	野	井	富	美	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	
滝	河	哲	郎	瀆	本	五	十	浅	野	井	富	美	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	

物 品 寄 付 者

(R 3. 5.13 ~ R 3.11. 9)

敬称略

氏 名				氏 名				氏 名				氏 名											
U	F	O	秋	杉	岡	美	智	本	光	寺	鳥	取	厚	生	保	護	女	性	会				
U	F	O	吉	い	さ	み	や	山	田	悦	会	長	坂	尻	恭	子	子	子	子				
ひ	よ	し	丸	(学)	愛	真	幼	林	昭	男	と	と	り	キ	ル	ト	ク	ラ	ブ				
ト	ー	ヨ	ー	中	村	艶	子	大	雲	院	代	表	谷	口	義	子	子	子	子				
田	中	和	丸	中	井	緑	子	岡	川	由	鳥	取	中	央	ラ	イ	オ	ン	ズ	ク	ラ	ブ	
江	崎	グ	リ	山	根	茂	子	(株)	ヤ	マ	ネ	機	材	フ	ィ	リ	ッ	モ	リ	ス	ジ	ャ	ン
第	一	S	部	鳥	取	会	子	(一社)	日	本	海	老	協	会	岡	村	哲	男	子	子	子	子	子
中	四	国	アイ	土	井	倫	子	百	松	野	和	美	亨	清	水	由	紀	子	子	子	子	子	
理	事	長	ス	南	條	芳	子	澤	福	田	眞	理	米	田	正	雄	子	子	子	子	子	子	
小	林	幸	男	ス	リ	ー	鳥	福	米	前	眞	理	米	田	正	雄	子	子	子	子	子	子	
西	川	清	司	西	柳	浩	二	福	米	前	眞	理	米	田	正	雄	子	子	子	子	子	子	
松	下	暢	子	稻	田	孝	文	八	安	本	芳	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	
正	木	恵	美	明	治	安	田	明	治	安	田	生	命	保	険	相	互	会	社	子	子	子	子
中	村	敦	司	溝	口	好	美	明	治	安	田	生	命	保	険	相	互	会	社	子	子	子	子
日	吉	光	明					明	治	安	田	生	命	保	険	相	互	会	社	子	子	子	子

クリスマス祝会の開催中止について

毎年12月に開催しております「鳥取子ども学園クリスマス祝会」を今年も新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、中止とさせていただきますこととしました。

楽しみにして下さっていた皆さまには申し訳ございませんが、なにとぞご理解いただきますようお願い申し上げます。

法人OB会(1月2日)中止のお知らせ

夏のOB会は、新型コロナウイルス感染症予防の為、中止としましたが、冬のOB会も飲食を伴うということで、中止させていただきます。寂しい限りですが、県外在住のOB・OGの帰鳥を中止してはいたしませんので体調を確認しながら、是非顔を見せて下さい。皆様の健康を祈ります。

【お礼】鳥取みどり園創立70周年記念事業にあたり

昭和26年4月1日に定員50名で保育所を開園してから、71年目を迎えた鳥取みどり園は、今年度、創立70周年記念事業として、4月1日に就労の有無にかかわらず通える「幼保連携型認定こども園」へと移行しました。現在、幼稚園籍のお子様も多くなり、様々な子育てのニーズに応えられる園となれたことありがたく思います。

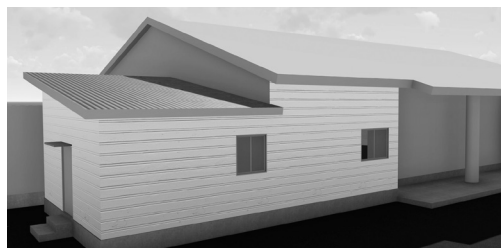
7月23日～25日の3日間、とりぎん文化会館を会場に「創立70周年記念チャリティー企画『現代国際巨匠絵画展』」を開催しました。世界の名だたる画家の作品に加え、全園児の絵画の力作も展示し、多くの方にご来場いただき至福の時を過ごしていただきました。この絵画展には、招待画家の原宏之画伯と年長児と一緒に園舎周りの四季の移ろいを表現した共同画も展示し、皆様に喜んでいただきました。

そして、31年間使ってきました給食室の増改築工事を進めています。創立より「体に良い食事を通して自分自身を大切にしてほしい」との精神で給食を作り続けている本園です。新しい給食室で調理する日を夢見ながら、子どもたちがわくわくするようなメニューを研究する日々です。この工事に関してクラウドファンディング等による多くの方々のご寄付を頂戴しました。

これら記念事業にあたり、多くの皆様の温かいご支援とご厚情を頂戴いたしましたこと心より感謝しお礼申し上げます。



原宏之画伯と年長児の共同画



給食室完成予想図

引き続き、オンラインでの寄付募集を行っています。  
詳しくは『鳥取子ども学園のご支援・ご寄付をお願いしております』をご覧ください。  
<https://tottorikodomogakuen.amebaownd.com/>



●従前どおり銀行口座へのご寄付は、下記へお願いします

法人本部：〒680-0061 鳥取市立川町5丁目417番地 鳥取子ども学園内  
TEL 0857-22-4206 FAX 0857-23-0242

振込口座：郵便振替 01490-9-9106  
鳥取銀行本店営業部 普通預金 7645611  
山陰合同銀行鳥取営業部 普通預金 3422812

口座名義：社会福祉法人鳥取子ども学園 理事長 藤野 興一  
※なお、郵便振替は寄付金・後援会費共通口座となっておりますので、寄付金・後援会費のどちらかに○をしてご入金ください。

●後援会会費は下記へお願いします

振込口座：鳥取銀行本店営業部 普通預金 0405970  
口座名義：鳥取子ども学園後援会 会長 村上 亜由美

【お願い】

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設での出来事、様子等を報告する意味で発刊しています。同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考慮してのことですので、ご理解いただきますようお願い致します。今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。